

# 2022年度(2023年3月期) 第1四半期 決算説明会

2022年 7月 29日  
セイコーエプソン株式会社



■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

- 本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新製品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。  
なお、業績などに影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

- 事業利益は、売上収益から 売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しています。連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しています。

■ 本説明資料における表示方法

- 数値:表示単位未満を切り捨て
- 比率:円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入
- 年号:断りが無い限り、会計年度を示す

- ご説明のポイント
- 第1四半期実績
- 2022年度通期業績予想・株主還元
- トピックス

## ■ 第1四半期実績(前年同期比)

売上収益 2,978億円(+157億円)、事業利益 226億円(-15億円)、四半期利益 266億円(+91億円)

- 供給制約による販売数量減少、部材費・物流費の高騰によるマイナス影響があった中、需給バランスに応じた価格対応を実施。  
売上収益、事業利益、四半期利益に円安によるプラス影響
- 4/28前回予想の前提となる社内計画に対しては、計画時には織り込んでいなかった上海ロックダウンによるマイナス影響(上海倉庫から中国市場向け出荷停滞)があったものの、売上収益は計画通り、事業利益は価格対応や費用コントロールにより約50億円上回る

## ■ 2022年度 通期業績予想(4/28前回予想比)

売上収益 13,600億円(+400億円)、事業利益 1,000億円(据え置き)、当期利益 740億円(+70億円)

- 供給制約悪化による販売数量の下方修正や、部材費・物流費のさらなる高騰によるマイナス影響を織り込むが、価格対応や費用コントロールを実施
- 為替前提を円安に変更したことにより、売上収益に600億円弱のプラス影響、事業利益への影響は軽微、当期利益にプラス影響

- 本日のご説明のポイントはご覧の通りです。
- 第1四半期の実績は、前年同期に対して、半導体調達難や上海ロックダウン影響による供給制約で販売数量が減少したことに加え、部材費・物流費の高騰によるマイナス影響も受けました。こうした中、需給バランスに応じた価格対応や円安によるプラス影響もありました。以上により、増収、事業利益は減益となりました。
- 通期業績予想は、前回予想に対して、上期の供給制約悪化による販売数量の下方修正や、部材費・物流費のさらなる高騰によるマイナス影響はありますが、価格対応や費用コントロールを実施することで、事業利益は据え置きます。
- 詳細は、次のスライド以降でご説明します。

- ご説明のポイント
- 第1四半期実績**
- 2022年度通期業績予想・株主還元
- トピックス

	2021年度		2022年度		対前年同期		
	(億円)	Q1実績 %	Q1実績 %		増減額	増減率	
売上収益	2,821		2,978		+157	+5.6%	
事業利益	242	8.6%	226	7.6%	-15	-6.6%	
営業利益	236	8.4%	312	10.5%	+75	+31.9%	
税引前利益	234	8.3%	370	12.4%	+135	+57.8%	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	174	6.2%	266	9.0%	+91	+52.5%	
EPS*1 (円)	50.56		77.10				
為替レート (円、指数)	USD	¥109.46	¥129.64				
	EUR	¥131.91	¥138.11				
	その他通貨*2	100	115				
			為替影響額 (億円)	USD	EUR	その他通貨 合計	合計
			売上収益	+164	+20	+118	+302
			事業利益	-33	+12	+55	+34

\*1 EPS:基本的1株当たり当期利益

\*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて  
加重平均した値について、前年同期を100とした指数

- はじめに、第1四半期の実績についてご説明します。
- 売上収益は、前年同期に対して157億円増収の2,978億円、事業利益は、15億円減益の226億円となりました。
- 半導体の調達難や物流混乱による供給制約で販売数量が減少した中、需給バランスに応じた価格対応を実施しましたが、部材費や物流費の高騰によるマイナス影響を受けました。
- 為替による影響は、売上収益に302億円、事業利益に34億円のプラスがありました。
- 当四半期は、その他営業収益および金融収益に為替差益を計上したことから、四半期利益は、前年同期に対して91億円増益の266億円となりました。
- なお、前回予想の前提となる社内計画に対しては、半導体調達難の改善の遅れに加え、上海ロックダウンにより主力倉庫から中国市場への商品出荷が停止し、販売数量が多く事業で未達となりました。
- 一方、価格対応や費用コントロールの実施、為替によるプラス影響がありました。
- その結果、売上収益は計画並となり、事業利益は、ビジュアルコミュニケーションを中心に、約50億円上回りました。

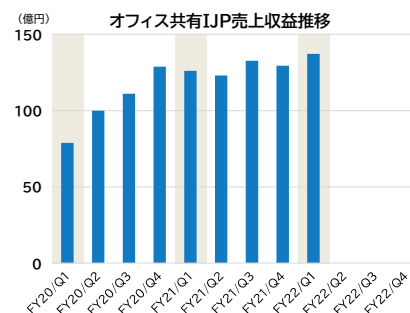
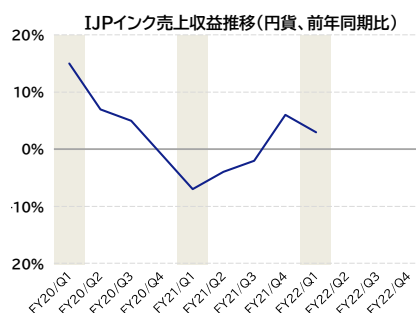
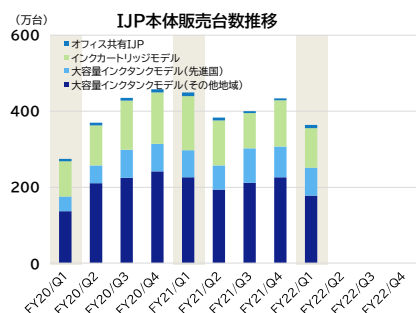
プリンティングソリューションズ		2021年度 Q1実績	2022年度 Q1実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益		1,923	1,976	+53	+204	+2.8%
セグメント利益		266	210	-56	+15	-21.0%
セグメント利益率		13.9%	10.7%			

オフィス・ホームプリンティング		2021年度 Q1実績	2022年度 Q1実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益		1,371	1,431	+59	+150	+4.4%
オフィス・ホームIJP(SOHO・ホームIJP)		1,061	1,127	+66		+6.2%
オフィス・ホームIJP(オフィス共有IJP)		125	137	+11		+9.0%
その他*		184	166	-17		-9.6%
事業利益		147	164	+16	+7	+11.4%
事業利益率		10.8%	11.5%			

- プリンティングソリューションズ
  - ▶ 半導体調達難や上海ロックダウン影響で供給制約がある中、需給バランスを踏まえた価格対応などで増収、部材費・物流費の高騰などにより減益
- オフィス・ホームプリンティング
  - ▶ IJP本体は販売数量が減少した一方、価格対応により増収
  - ▶ IJPインクはインクボトルとオフィス共有IJPインクの販売増加
  - ▶ 部材費・物流費の高騰はあったものの、事業利益は増益

\*スキャナー、SIDM、LP、オフィス製紙機など



© Seiko Epson Corporation 2022

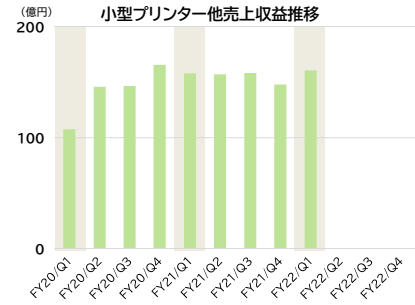
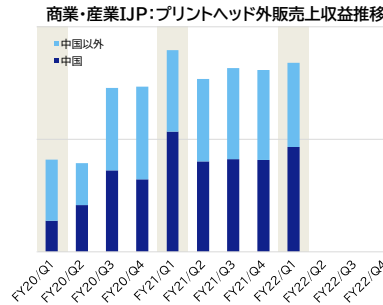
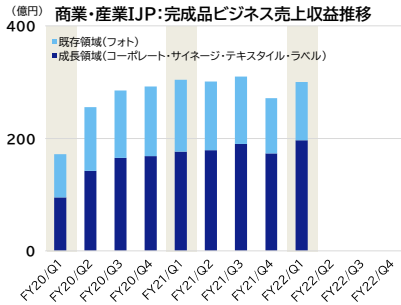
6

- ▶ プリンティングソリューションズの実績はご覧のとおりです。
- ▶ 前年同期に対して、売上収益は、53億円 増収の 1,976億円となりました。
- ▶ セグメント利益は、56億円 減益の 210億円となりました。
- ▶ オフィス・ホームプリンティングは、売上収益は 59億円 増収の 1,431億円、事業利益は 16億円 増益の 164億円となりました。
- ▶ SOHO・ホームIJP本体は、在宅印刷需要が欧米などで一定程度定着していることに加え、チャネル在庫水準の適正化に向けて、需要は強い状態が継続しました。オフィス共有IJP本体も、優良ディーラーとの協業により、環境性能などの訴求を進め、案件獲得が進みました。
- ▶ しかしながら、いずれも半導体調達難や物流混乱によるリードタイム長期化の影響から、供給制約が継続しました。特に中国では、上海ロックダウンにより倉庫からの商品出荷が停止したことで販売機会の損失もありました。
- ▶ こうした環境下で、北米では大容量インクタンクモデルの販売台数を大幅に増加させたものの、IJP本体の販売台数は前年同期を 19%下回りました。一方、売上収益は、価格対応と為替影響により、増収となりました。
- ▶ インクは、インクカートリッジの販売は減少しましたが、大容量インクタンクモデルやオフィス共有IJPの本体市場稼働台数の増加に加え、為替影響により増収となりました。
- ▶ 事業利益は、部材費や物流費の高騰影響があったものの、価格対応や費用コントロールの実施により、増益となりました。
- ▶ なお社内計画比では、売上収益は計画並、事業利益は計画を上回りました。

商業・産業プリンティング	(億円)		増減率		
	2021年度 Q1実績	2022年度 Q1実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	551	545	-6	+53	-1.2%
商業・産業IJP	393	384	-9		-2.4%
小型プリンター他	157	160	+2		+1.8%
事業利益	119	46	-72	+8	-61.2%
事業利益率	21.6%	8.5%			

## ■ 商業・産業プリンティング

- 商業・産業IJPの完成品ビジネスは、供給制約により、成長領域の販売伸長は限定的。既存領域のフォト用インクで北米大口顧客の特需があった前年同期に対し販売減。
- 成長に向けた費用投下は継続、部材費・物流費の高騰影響
- プリントヘッド外販ビジネスは、上海ロックダウンによる出荷停滞を受け減収
- 小型プリンターは、供給制約により売上収益は前年同期並



© Seiko Epson Corporation 2022

7

- 商業・産業プリンティングは、減収・減益となりました。
- 商業・産業IJPの完成品ビジネスは、中国でのゼロコロナ施策による市場の冷え込みはありましたが、全体では受注残は高い水準にあり需要は強い状態が継続しています。しかしながら、本体が供給制約を受けたことで、成長領域の増収が限定的だったことに加え、既存領域のフォト用インクでは北米大口顧客で特需があった前年同期に対して販売が減少したことなどにより、全体では減収となりました。
- 中国向けの売上比率が高いプリントヘッド外販ビジネスは、上海ロックダウンによる出荷停滞で、減収となりました。
- 小型プリンター他は、小売店をはじめ需要は強いものの、供給制約により売上収益は前年同期並となりました。
- 事業利益は、これらの減収影響に加えて、完成品ビジネス拡大に向けた費用投下を継続していることや、部材費・物流費の高騰、小型プリンターでの納期対応のための航空輸送費の増加などにより、減益となりました。
- なお社内計画比でも、売上収益、事業利益ともに未達となりました。



ビジュアルコミュニケーション	2021年度 Q1実績	2022年度 Q1実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	407	456	+49	+50	+12.1%
セグメント利益	44	64	+19	-2	+42.6%
セグメント利益率	11.0%	14.0%			

■ ビジュアルコミュニケーション

- 需要は強いものの、供給制約により販売台数は減少
- 為替影響により増収
- 費用コントロールを継続

◆ プロジェクターの販売動向<sup>\*1</sup>

	2021年度 Q1実績	2022年度 Q1実績
売上収益(円貨)	+72%	+13%
売上収益(現地通貨)	+60%	+0%
販売台数	+67%	-3%

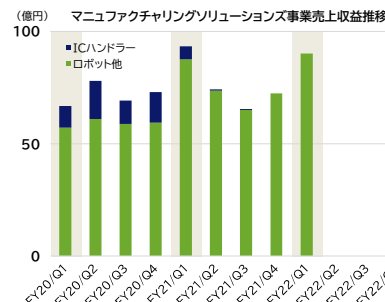
<sup>\*1</sup> 社内管理簿に基づく指標  
 増減率は前年同期比

■ マニファクチャリング関連・ウェアラブル

- マイクロデバイス他が好調で増収増益
- ・ マニファクチャリングソリューションズは、ロボットの供給制約がある中、売上収益は前年同期並
- ・ ウェアラブル機器は、ウォッチ・ムーブメントともに増収
- ・ マイクロデバイス他は、旺盛な需要が継続

マニファクチャリング関連 ウェアラブル	2021年度 Q1実績	2022年度 Q1実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	495	560	+64	+51	+13.0%
マニファクチャリングソリューションズ <sup>*2</sup>	93	90	-3		-3.3%
ウェアラブル機器	92	102	+9		+10.2%
マイクロデバイス他	275	334	+58		+21.3%
PC	40	42	+2		+5.0%
事業間売上収益	-7	-9	-2		-
セグメント利益	56	86	+29	+22	+51.1%
セグメント利益率	11.5%	15.4%			

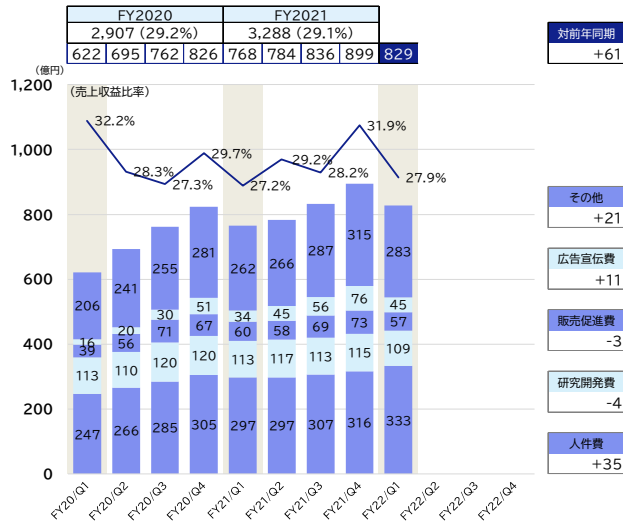
<sup>\*2</sup> ICハンドラー事業は2021年4月に譲渡



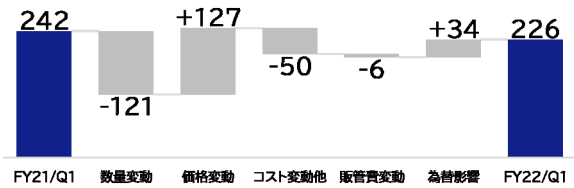
- ビジュアルコミュニケーションは、欧米の教育向けをはじめプロジェクターの受注残は依然として高い水準にあるものの、供給制約の継続により、前年同期に対して販売台数が減少しました。一方、価格対応や為替影響により、売上収益は49億円増収の456億円となりました。
- セグメント利益は、在庫増加に伴う利益の押し上げ影響などもあり、19億円増益の64億円となりました。
- 社内計画比では、売上収益・事業利益ともに計画を上回りました。
- マニファクチャリング関連・ウェアラブルは、売上収益は為替影響もあり64億円増収の560億円、セグメント利益は29億円増益の86億円となりました。
- マニファクチャリングソリューションズは、供給制約がある中、売上収益は前年同期並となりました。
- ウェアラブル機器は、ウォッチ、ムーブメントともに増収となりました。
- マイクロデバイス他は、需要が旺盛で、平均単価の上昇もあり、増収となりました。
- セグメント利益は、マイクロデバイスの増収影響や、ウェアラブル機器の収益性改善に加え、為替影響により大幅な増益となりました。
- 社内計画比では、売上収益は計画並、事業利益は計画を上回りました。

販管費変動：主に為替影響(+55億円)により増加

販売費及び一般管理費推移



事業利益の変動要因 (億円)



数量変動

+ マイクロデバイス、ウオッチ  
 - オフィス・ホームIJP、プロジェクター、商業・産業IJP、小型プリンターなど

価格変動

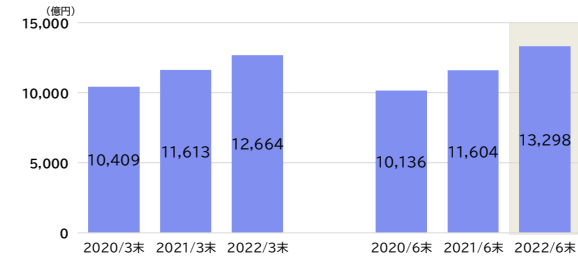
+ オフィス・ホームIJP、プロジェクター、マイクロデバイス、商業・産業IJPなど

コスト変動他

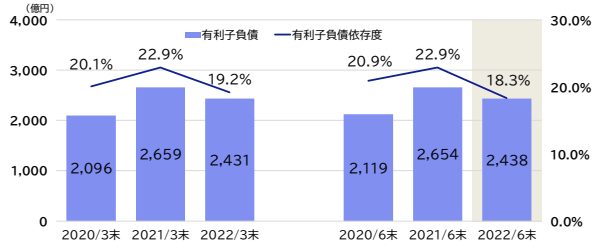
+ 在庫増減影響など  
 - 部材費、物流費の上昇など

- 販売費および一般管理費推移は、左のグラフの通りです。
- 販管費の増加は、主に為替影響によるものです。
- 販管費率は 27.9%となり、引き続き、効率的な執行を継続しています。
- 事業利益の変動要因を、右のグラフでご説明します。
- 数量変動は、マイクロデバイスやウオッチでプラスとなりましたが、大多数の商品で部材調達難の影響を受け、大きなマイナスとなりました。
- 一方、価格変動は、需給バランスに応じた価格対応を行ったことでプラスです。
- コスト変動他は、主に部材費や物流費の増加によりマイナスとなりました。

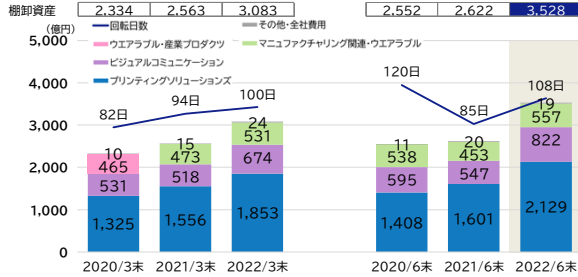
資産合計



有利子負債・有利子負債依存度



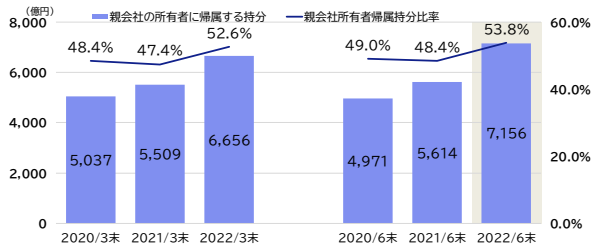
棚卸資産・回転日数



ネットキャッシュ



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者持分比率



\*回転日数(3月末)→連結会計期間末棚卸資産残高/連結会計期間末直前12ヶ月間の1日当たり売上収益  
\*回転日数(6月末)→連結会計期間末棚卸資産残高/連結会計期間末直前3ヶ月間の1日当たり売上収益

- 財政状態計算書の主要項目について、ご説明します。
- 資産合計は、前年度末に対して 634億円増加し、1兆3,298億円となりました。
- 棚卸資産は、為替影響に加え、供給制約の緩和に向けてさまざまな部材確保を進めたことや、物流リードタイムの延伸による洋上在庫の増加により、3,528億円となり、回転日数は 108日となりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分合計は、前年度末に対して 500億円増加し 7,156億円となりました。

- ご説明のポイント
- 第1四半期実績
- 2022年度通期業績予想・株主還元
- トピックス

# 2022年度 通期業績予想 | ハイライト

	2021年度		2022年度				増減額/増減比		
	(億円)	実績	%	4/28予想	%	今回予想	%	対前期	対4/28予想
売上収益		11,289		13,200		13,600		+2,310 +20.5%	+400 +3.0%
事業利益		896	7.9%	1,000	7.6%	1,000	7.4%	+103 +11.6%	- -
営業利益		944	8.4%	960	7.3%	1,020	7.5%	+75 +8.0%	+60 +6.3%
税引前利益		971	8.6%	950	7.2%	1,050	7.7%	+78 +8.1%	+100 +10.5%
親会社の所有者に帰属する当期利益		922	8.2%	670	5.1%	740	5.4%	-182 -19.8%	+70 +10.4%
EPS*1 (円)		266.73		193.63		213.86			
為替レート (円、指数)	USD	¥112.37		¥121.00		¥131.00			
	EUR	¥130.55		¥132.00		¥135.00			
	その他通貨*2	100		109		112			

\*1 EPS：基本的1株当たり当期利益

\*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて加重平均した値について、前期を100とした指数

\*3 USD/EURは1円の円高による年間影響額 (億円)  
その他通貨は1%の円高による年間影響額 (億円)

第2四半期以降の  
為替前提(円)

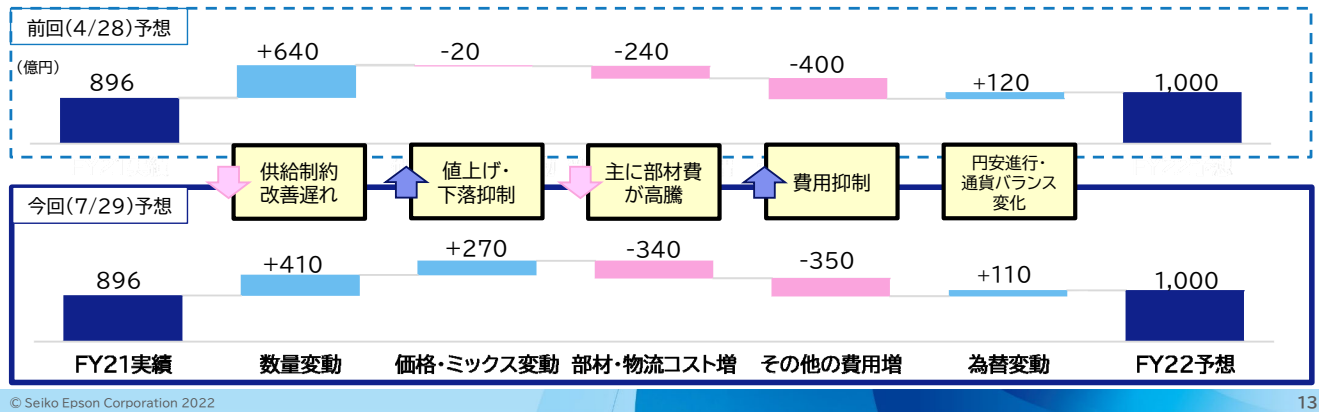
USD	132.00
EUR	134.00

為替感応度\*3  
(億円)

	USD	EUR	その他通貨 合計	年間為替 影響額見込み
売上収益	-32	-14	-35	+1,200
事業利益	+7	-9	-17	+110

- 続きまして、通期業績予想をご説明します。
- 売上収益は、前回予想から 400億円 上方修正し 1兆3,600億円、事業利益は 1,000億円を据え置きます。当期利益は為替差益を反映し 70億円 上方修正となる 740億円としました。
- 第2四半期以降の為替前提は、直近の状況を踏まえ、USD 132円、EUR 134円としました。
- 前年度からの為替変動による影響は、売上収益で 1,200億円、事業利益で 110億円のプラスを見込みます。なお、前回予想に対しては為替前提を円安に見直したため、売上収益には 600億円弱のプラスがありますが、事業利益への影響は軽微です。

- 在宅勤務の定着、チャンネル在庫水準の適正化に向けて、需要は依然として強い
- 供給制約改善の遅れ、部材コストの増加への対応を織り込む
  - 半導体など部材調達難による供給制約は、下期に改善を見込む
  - 販売価格は足元の状況を踏まえ、値上げ、価格下落抑制を見込む
- 供給数量を確保できない場合は、さらなる価格対応・費用コントロールを実施



- 4月28日の前回予想からの前提変化について、事業利益の増減要因を基にご説明します。
- 中国をはじめとした世界経済の減速は認識しているものの、エプソンのビジネスにとっては、各種調査データが示している在宅勤務の定着が、印刷需要の下支えとなっています。この最終需要に加え、在庫水準の適正化に向けたチャンネル需要も、強い状態が継続しています。
- しかしながら、半導体調達難の改善が遅れており、上期の販売数量は前回予想には届きませんが、さまざまな施策により、調達は徐々に進み、下期には供給制約の改善を見込んでいます。
- 価格は、第1四半期や足元でも想定より高値で推移していることから、さらなる値上げや価格下落の抑制により、前回からはプラス影響を見込みます。
- コストは、半導体やプラスチック部品などさまざまな部材の価格高騰を織り込みました。
- その他の費用は、抑制を見込みます。
- このような前提ではありますが、変化に対しては、引き続き、需給バランスに応じた価格対応や、費用コントロールを実施し、利益を確保していきます。

# 2022年度通期業績予想 | プリンティングソリューションズ

プリンティングソリューションズ	2021年度実績	2022年度4/28予想	2022年度今回予想	対前期増減額	対前期増減率	対4/28予想
売上収益	7,799	9,160	9,340	+1,540	+19.8%	+180
セグメント利益	1,064	1,110	1,030	-34	-3.3%	-80
セグメント利益率	13.7%	12.1%	11.0%			

オフィス・ホームプリンティング	2021年度実績	2022年度4/28予想	2022年度今回予想	対前期増減額	対前期増減率	対4/28予想
売上収益	5,663	6,650	6,770	+1,106	+19.5%	+120
オフィス・ホームIJP(SOHO・ホームIJP)	4,453	5,210	5,340	+886	+19.9%	+130
オフィス・ホームIJP(オフィス共有IJP)	511	660	620	+108	+21.2%	-40
その他*	698	780	810	+111	+15.9%	+30
事業利益	730	680	650	-80	-11.1%	-30
事業利益率	12.9%	10.2%	9.6%			

商業・産業プリンティング	2021年度実績	2022年度4/28予想	2022年度今回予想	対前期増減額	対前期増減率	対4/28予想
売上収益	2,136	2,510	2,570	+433	+20.3%	+60
商業・産業IJP	1,515	1,770	1,780	+264	+17.4%	+10
小型プリンター他	620	740	790	+169	+27.2%	+50
事業利益	333	430	380	+46	+13.8%	-50
事業利益率	15.6%	17.1%	14.8%			

## ■ オフィス・ホームプリンティング

- ・ オフィス・ホームIJPが、供給制約の改善遅れにより販売数量を前回予想から下方修正、需給バランスに応じた価格対応継続
- ・ インク売上は、インクボトル・オフィス共有IJPインクの販売が安定的に推移

## ■ 商業・産業プリンティング

- ・ 上海ロックダウンや供給制約の状況を反映。下期は供給制約の改善とともに、新商品も投入し、需要を捉え販売伸長
- ・ 為替影響により売上収益を上方修正

\*スキャナー、SIDM、LP、オフィス製紙機など

販売動向(社内管理値に基づく指標)	FY21実績	FY22 4/28予想	FY22 今回予想	
オフィス・ホームIJP 本体販売数量	伸長率 約、万台	+8%	+17%	+10%
内 大容量インクタンクモデル	1,160	1,420	1,330	
内 SOHO・ホーム向けI/Cモデル	480	490	480	
内 オフィス共有IJP	30	40	30	
オフィス・ホームIJP インク売上収益伸長率	(円貨) (現地通貨)	-2%	+7%	+7%
		-6%		

- ▶ 続いて、事業セグメント別の業績予想をご説明します。
- ▶ プリンティングソリューションズは、為替影響も反映し、売上収益は 180億円 上方修正し 9,340億円、セグメント利益は 80億円 下方修正し 1,030億円を予想します。
- ▶ オフィス・ホームプリンティングは、IJP本体の販売台数が、上期の供給制約の改善が遅れることで、前年度に対しては 10%増となる 1,840万台に下方修正します。
- ▶ 一方、第2四半期以降の想定価格を、足元の状況も踏まえて見直したことに加え、為替影響により、売上収益は上方修正します。
- ▶ 事業利益は、部材費・物流費も増加する厳しい環境の中、さらに為替変動によるマイナス影響も織り込み、下方修正します。
- ▶ 商業・産業プリンティングは、上海ロックダウンや供給制約の状況を踏まえ、上期を中心に販売計画を引き下げましたが、供給制約の改善とともに新商品も投入し、下期に販売を伸長させるという前提に変更はありません。加えて、為替影響もあり、売上収益は上方修正します。
- ▶ 事業利益は、第1四半期の実績に加え、部材費の高騰などを反映し、下方修正します。

ビジュアルコミュニケーション	2021年度 実績	2022年度 4/28予想	2022年度 今回予想	対前期 増減額	対前期 増減率	(億円) 対4/28 予想
売上収益	1,590	1,840	1,980	+389	+24.5%	+140
セグメント利益	153	160	210	+56	+36.8%	+50
セグメント利益率	9.7%	8.7%	10.6%			

### ■ ビジュアルコミュニケーション

- 教育向けやスマートプロジェクターの強い需要は継続
- 供給制約の継続により販売数量の伸長は限定的なものの、値上げやモデルミックス変動によるプラス影響を織り込む

◆ プロジェクターの販売動向 <sup>*1</sup>	2021年度 実績	2022年度 4/28予想	2022年度 今回予想
販売台数(約、万台)	170	190	190
伸長率	+2%	+10%	+9%

\*1社内管理値に基づく指標  
伸長率は前年同期比

マニファクチャリング関連 ウェアラブル	2021年度 実績	2022年度 4/28予想	2022年度 今回予想	対前期 増減額	対前期 増減率	(億円) 対4/28 予想
売上収益	1,919	2,220	2,320	+400	+20.8%	+100
マニファクチャリングソリューションズ <sup>*2</sup>	305	330	340	+34	+11.5%	+10
ウェアラブル機器	346	340	370	+23	+6.8%	+30
マイクロデバイス他	1,109	1,380	1,440	+330	+29.8%	+60
PC	189	200	200	+10	+5.3%	-
事業間売上収益	-30	-30	-30	+0	-	-
セグメント利益	230	320	350	+119	+52.0%	+30
セグメント利益率	12.0%	14.4%	15.1%			

\*2 ICハンドラー事業は2021年4月に譲渡

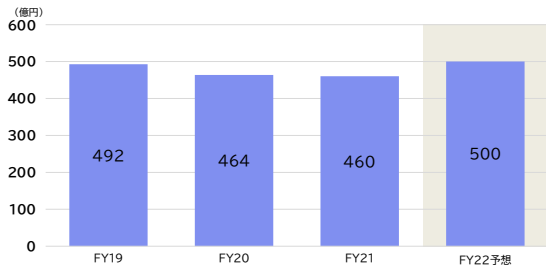
### ■ マニファクチャリング関連・ウェアラブル

- マニファクチャリングソリューションズは、中国でスマートフォン市場が軟調なものの、欧米での自動車・医療向けなどでロボットの販売が増加
- ウェアラブル機器は、商品力を高めたウオッチの販売が国内外で伸長
- マイクロデバイス他は、水晶デバイスや半導体の旺盛な需要が継続

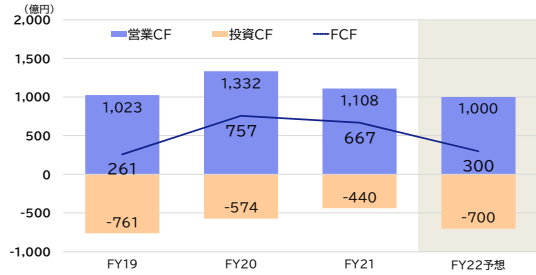
- ビジュアルコミュニケーションは、売上収益を 140億円 上方修正し 1,980億円、セグメント利益を 50億円 上方修正し 210億円とします。
- 供給制約が継続する中、価格対応やモデルミックス変動によるプラス影響を織り込みました。
- マニファクチャリング関連・ウェアラブルは、主に為替影響により、売上収益を 100億円 上方修正し 2,320億円、セグメント利益を 30億円 上方修正し 350億円とします。
- マニファクチャリングソリューションズは、地域やアプリケーションごとに需要の強弱はあるものの、全体では予想に大きな変更はありません。
- ウェアラブル機器は、ウオッチの販売数量を見直しました。
- マイクロデバイス他では、足元でスマートフォンなど一部のアプリケーションで弱含みはあるものの、水晶デバイスや半導体の旺盛な需要は継続しています。



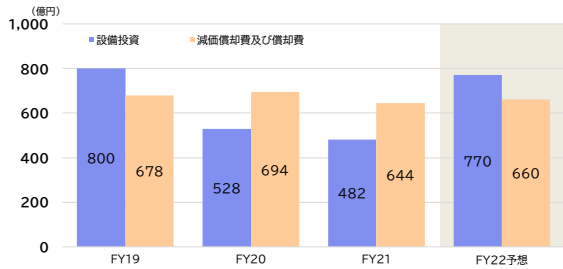
## 研究開発費



## フリー・キャッシュ・フロー



## 設備投資・減価償却費及び償却費



主要経営指標	FY19 実績	FY20 実績	FY21 実績	FY22 予想	FY23 目標	FY25 目標
為替レート:USD	108.74	106.01	112.37	131.00	-	-
為替レート:EUR	120.85	123.67	130.55	135.00	-	-
売上収益 (億円)	10,436	9,959	11,289	13,600	-	-
事業利益 (億円)	408	616	896	1,000	-	-
親会社の所有者に帰属する 当期利益 (億円)	77	309	922	740	-	-
ROS <sup>*1</sup>	3.9	6.2	7.9	7.4%	8%以上	10%以上
ROA <sup>*2</sup>	3.9	5.6	7.4	7.7%	-	-
ROE <sup>*3</sup>	1.5	5.9	15.2	10.8%	10%以上	13%以上
ROIC <sup>*4</sup>	4.1	5.6	7.3	7.6%	8%以上	11%以上

<sup>\*1</sup> 売上収益事業利益率 = 事業利益 / 売上収益  
<sup>\*2</sup> 資産合計事業利益率 = 事業利益 / 期首・期末資産合計平均  
<sup>\*3</sup> 親会社所有者帰属持分当期利益率 = 親会社の所有者に帰属する当期利益 / 期首・期末親会社の所有者に帰属する持分平均  
<sup>\*4</sup> 投下資本利益率 = 税引後事業利益 / (親会社の所有者に帰属する持分 + 有利子負債) / 親会社の所有者に帰属する持分および有利子負債は期首・期末平均

- 研究開発費は、前回予想から変更はありません。
- 設備投資は、為替影響もあり、前回予想から60億円増加の770億円としました。
- 減価償却費は、為替影響などにより、前回予想から10億円増加の660億円としました。
- フリーキャッシュフローは、棚卸資産や設備投資の増加を反映した結果、前回予想より150億円下方修正し、300億円を予想します。
- 主要経営指標はご覧のとおりです。ROEは10.8%を予想します。
- 引き続き、資本コストを意識し、収益性を重視した経営に取り組んでまいります。

## ■ 基本方針

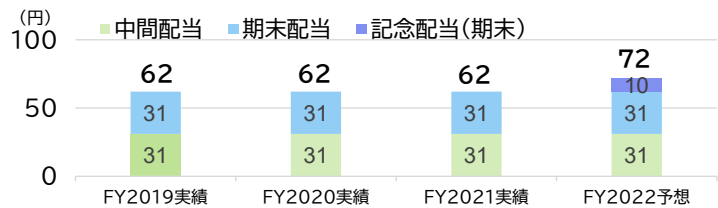
- 強固な財務構造の構築と、積極的な利益還元とに並行して取り組む
  - ✓ 中期的には連結配当性向\*40%程度を目標 \* 事業利益から法定実効税率相当額を控除した額を元に算出
  - ✓ 株価水準や資金の状況などを総合的に勘案し、必要に応じて機動的に自己株式を取得

## ■ 自己株式取得

- 取得価額の総額:300億円(上限)
- 取得期間:2022年5月20日~2023年5月19日

## ■ 配当実績・予想

- 創業80周年記念配当10円を加え年間配当を72円に増額



- 株主還元についてご説明します。
- 今年5月には、300億円を上限とする自己株式の取得を発表しました。
- また、2022年度の配当予想は、創業80周年 記念配当 10円を加え、年間配当を 72円に増額する予定です。

- ご説明のポイント
- 第1四半期実績
- 2022年度通期業績予想・株主還元
- トピックス

ESG  
インデックス  
組み入れ・  
格付け

- FTSE4Good Index Series : 19年連続
- FTSE Blossom Japan Index : 6年連続
- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index : 初選定
- MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数 : 初選定
- MSCI日本株女性活躍指数 (WIN) : 6年連続
- S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数 : 5年連続
- SOMPOサステナビリティ・インデックス : 11年連続
- CDP企業調査「Aリスト」企業 (分野:気候変動・水セキュリティ) : 2年連続
- CDP「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー・ボード」 : 3年連続
- EcoVadis社のサステナビリティ評価「プラチナ」 : 2年連続
- 日本政策投資銀行(DBJ)環境格付け融資「ランクA」 : 初選定
- Forbes JAPAN「AIが厳選!最強のサステナブル企業100」総合部門1位 : 2021年9月
- 第3回日経SDGs経営調査「SDGs経営」総合ランキング最高位 : 2021年11月
- 第3回日経SDGs経営大賞「環境価値賞」 : 2021年11月
- 第3回ESGファイナンス・アワード・ジャパン 環境サステナブル企業部門「銀賞」 : 2022年2月
- 健康経営銘柄2022(電気機器業界1位)\* : 2022年3月
- 日経225 : 2017年から選定

GPIFが採用する  
ESG国内指数5件全てに選定



緑字: 2022年4月以降に選定

ESG  
関連表彰・  
銘柄選定

\* 健康経営の目的・体制 [https://www.epson.jp/SR/our\\_people/health\\_and\\_productivity.htm#h2\\_02](https://www.epson.jp/SR/our_people/health_and_productivity.htm#h2_02)

- 最後に、第1四半期のトピックスをご紹介します。
- ESG投資の主要指数である「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」と「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」の構成銘柄に、初めて選定されました。
- これにより、GPIFが採用するESG国内株式指数5件全てに、選定されたこととなります。

## セイコーエプソン創業80周年

- 「エプソンミュージアム諏訪」オープン
  - 本社事業所(長野県諏訪市)にて一般公開
  - 「創業記念館」と「ものづくり歴史館」で、創業から現在、今後の目指す姿を展示



創業から間もない当時の社屋

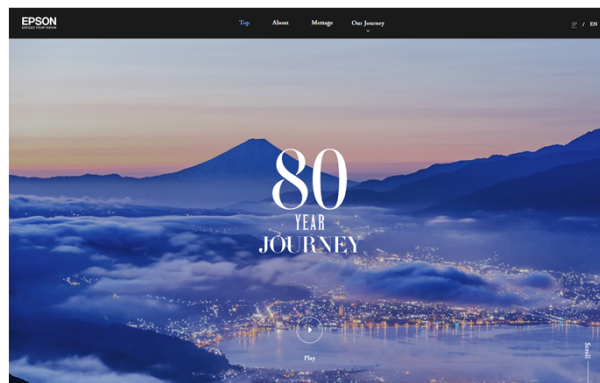


創業記念館



ものづくり歴史館

- セイコーエプソン創業80周年スペシャルサイト
  - 創業時からの理念やこれまでの歴史をひもとく <https://80th.epson.com>



- エプソンは、創造と挑戦を繰り返すことによって5月に創業80年を迎えました。今後もさまざまな社会課題を解決し、「持続可能でこころ豊かな社会」の実現に向けて取り組んでまいります。

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION

## 補足資料

# 主要商品の販売動向

			FY2021 Q1 実績	FY2021 Q2 実績	FY2021 Q3 実績	FY2021 Q4 実績	FY2021 通期 実績	FY2022 Q1実績	FY2022 通期 予想	
*社内管理値に基づく指標 伸長率は前年同期比			USD	109.46	110.08	113.71	116.21	112.37	131.00	
			EUR	131.91	129.77	130.08	130.45	130.55	135.00	
オフィス・ホーム プリンティング	オフィス・ホーム IJP 本体	売上収益(円貨)	伸長率	+85%	+20%	+10%	+10%	+25%	+9%	+29%
		売上収益(現地通貨)	伸長率	+74%	+14%	+3%	+4%	+18%	-4%	
		本体数量	伸長率	+63%	+4%	-8%	-5%	+8%	-19%	+10%
		内 大容量インクタンクモデル	万台					約1,160		約1,330
		内 SOHO・ホーム向けI/Cモデル	万台					約480		約480
	内 オフィス共有IJP	万台					約30		約30	
	オフィス・ホーム IJP インク	インク売上収益比率 インク÷(本体+インク)	構成比					41%		36%
		売上収益(円貨)	伸長率	-7%	-4%	-2%	+6%	-2%	+3%	+7%
		売上収益(現地通貨)	伸長率	-11%	-7%	-6%	+1%	-6%	-6%	
	ビジュアル コミュニケーション	プロジェクター 本体	売上収益(円貨)	伸長率	+72%	+7%	+6%	-12%	+12%	+13%
売上収益(現地通貨)			伸長率	+60%	+1%	-2%	-17%	+5%	+0%	
本体数量			伸長率	+67%	-2%	-5%	-25%	+2%	-3%	+9%
本体数量			万台					約170		約190



# 財務データ(2021年度・2022年度)

		(億円)									
		FY2021 Q1 実績	FY2021 Q2 実績	FY2021 Q3 実績	FY2021 Q4 実績	FY2021 実績	FY2022 Q1 実績	FY2022 Q2 実績	FY2022 Q3 実績	FY2022 Q4 実績	FY2022 予想
為替レート	USD	109.46	110.08	113.71	116.21	112.37	129.64				131.00
	EUR	131.91	129.77	130.08	130.45	130.55	138.11				135.00
プリンティングソリューションズ	売上収益	1,923	1,832	2,053	1,990	7,799	1,976				9,340
	セグメント利益	266	283	308	205	1,064	210				1,030
オフィス・ホームプリンティング	売上収益	1,371	1,298	1,503	1,490	5,663	1,431				6,770
	事業利益	147	187	229	165	730	164				650
商業・産業プリンティング	売上収益	551	534	550	500	2,136	545				2,570
	事業利益	119	96	79	39	333	46				380
ビジュアルコミュニケーション	売上収益	407	399	436	346	1,590	456				1,980
	セグメント利益	44	47	40	21	153	64				210
マニファクチャリング関連・ウエアラブル	売上収益	495	458	474	491	1,919	560				2,320
	セグメント利益	56	56	61	56	230	86				350
全社費用・その他、調整額	売上収益	-4	-6	-2	-6	-20	-14				-40
	セグメント利益	-126	-132	-137	-155	-552	-134				-590
連結合計	売上収益	2,821	2,684	2,961	2,821	11,289	2,978				13,600
	事業利益	242	254	272	126	896	226				1,000
	ROS	8.6%	9.5%	9.2%	4.5%	7.9%	7.6%				7.4%
研究開発費		113	117	113	115	460	109				500
設備投資	プリンティングソリューションズ	51	60	64	107	284	78				460
	ビジュアルコミュニケーション	9	9	9	13	41	14				70
	マニファクチャリング関連・ウエアラブル	14	21	32	45	113	17				160
	全社費用・その他	6	9	14	13	43	17				80
減価償却費	プリンティングソリューションズ	94	92	94	95	377	101				400
	ビジュアルコミュニケーション	26	25	25	25	103	27				90
	マニファクチャリング関連・ウエアラブル	21	21	21	22	87	23				100
	全社費用・その他	19	19	19	17	76	18				70
営業CF		213	349	310	234	1,108	-123				1,000
FCF		98	244	213	110	667	-309				300

# 海外売上収益・従業員数

## 海外売上収益






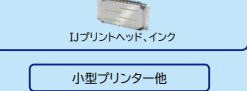




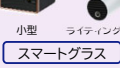













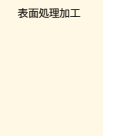



為替レート(円)	USD	107.54	106.16	104.48	105.86	109.46	110.08	113.71	116.21	129.64
	EUR	118.39	124.10	124.51	127.68	131.91	129.77	130.08	130.45	138.11

売上収益(億円)	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3	FY20/Q4	FY21/Q1	FY21/Q2	FY21/Q3	FY21/Q4	FY22/Q1	対前年同期
米州	598	719	733	827	852	801	810	862	1,000	+147
欧州	397	500	587	598	583	571	623	617	573	-10
アジア・オセアニア	495	739	797	749	868	789	844	772	884	+15
海外売上収益計	1,490	1,959	2,119	2,175	2,304	2,162	2,278	2,252	2,457	+153
連結合計	1,932	2,459	2,788	2,779	2,821	2,684	2,961	2,821	2,978	+157

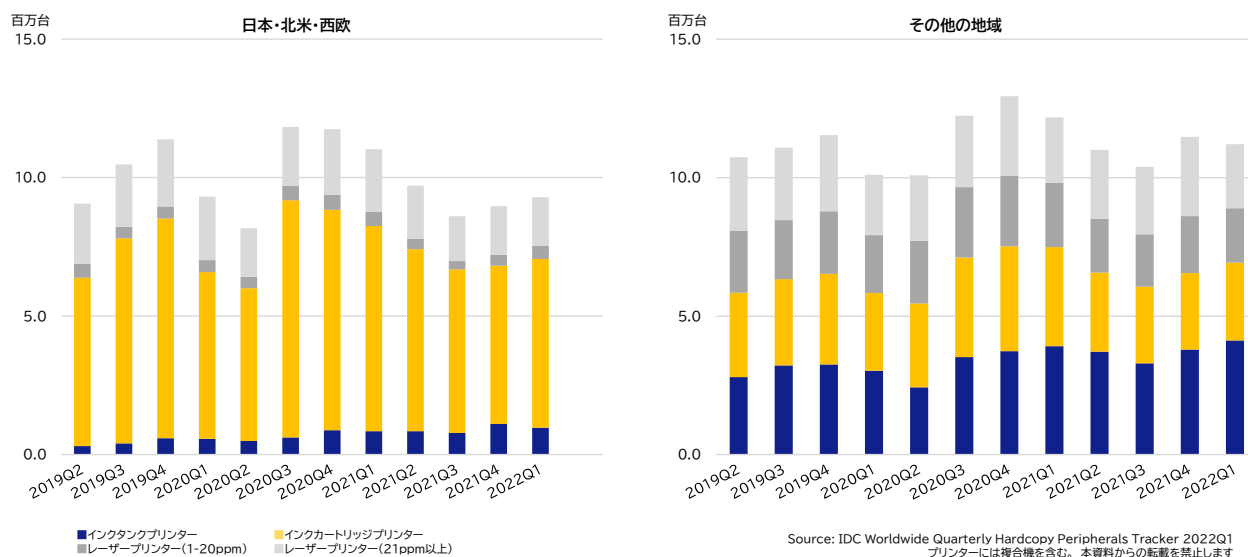
構成比	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3	FY20/Q4	FY21/Q1	FY21/Q2	FY21/Q3	FY21/Q4	FY22/Q1
米州	31.0%	29.3%	26.3%	29.8%	30.2%	29.9%	27.4%	30.6%	33.6%
欧州	20.6%	20.4%	21.1%	21.5%	20.7%	21.3%	21.0%	21.9%	19.2%
アジア・オセアニア	25.6%	30.1%	28.6%	27.0%	30.8%	29.4%	28.5%	27.4%	29.7%
海外売上収益計	77.2%	79.7%	76.0%	78.3%	81.7%	80.6%	76.9%	79.8%	82.5%

## 従業員数

期末従業員数(人)	2020/6末	2020/9末	2020/12末	2021/3末	2021/6末	2021/9末	2021/12末	2022/3末	2022/6末	対前年同期
国内	19,962	19,723	19,620	19,470	19,827	19,805	19,788	19,705	20,128	+301
海外	57,107	59,287	62,618	60,474	60,813	60,000	59,917	57,937	59,887	-926
連結合計	77,069	79,010	82,238	79,944	80,640	79,805	79,705	77,642	80,015	-625

イノベーション	オフィス・ホーム プリンティング イノベーション	商業・産業 プリンティング イノベーション	ビジュアル イノベーション	マニュファクチャリング イノベーション	ライフスタイル イノベーション		
セグメント	プリンティングソリューションズ		ビジュアル コミュニケーション	マニュファクチャリング関連・ウェアラブル			
事業 ・ 主要商品	<b>オフィス・ホームプリンティング</b> オフィス・ホームIJP SOHO・ホーム  大容量インクタンクモデル インクカートリッジモデル オフィス共有  大容量インクパックモデル (RIPS) ラインインクジェット複合機 (Lij) オフィス向けインクカートリッジモデル  SIDM スキャナー 乾式オフィス製紙機 レーザープリンター	<b>商業・産業プリンティング</b> 商業・産業IJP 完成品ビジネス  フォト コーポレート  サイネージ ラベルプリンター  テキスタイル ラベル印刷機 <b>プリントヘッド外販ビジネス</b> IJプリントヘッド、インク 小型プリンター他 小型プリンター 小型ラベルプリンター	<b>プロジェクター</b> 高光束  超短焦点  スタンダード  ホーム  小型 ライティング  スマートグラス 	<b>マニュファクチャリングソリューションズ</b> ロボット  スカラ  6軸  <b>オプション</b>  小型射出成形機 	<b>ウェアラブル機器</b> エプソンブランド  TRUME  オリエント  <b>ムーブメント</b>  <b>セイコービジネス</b> 	<b>マイクロデバイス他</b> マイクロデバイス  水晶デバイス  半導体  エプソンダイレクトPC 	<b>PC</b>  エプソンダイレクトPC 

## A4サイズプリンターのタイプ別市場推移(暦年)



I/C	Ink Cartridge, インクカートリッジ
IJP	Inkjet Printer, インクジェットプリンター
LIJ	Line Inkjet Printer, 高速ラインインクジェット複合機
LP	Laser Printer, レーザープリンター(複合機含む)
RIPS	Replaceable Ink Pack System, 大容量インクパックモデル
大容量インクタンクモデル	エコタンク搭載インクジェットプリンター
大容量インクモデル	大容量インクタンクモデル、大容量インクパックモデル(RIPS)、高速ラインインクジェット(LIJ)の総称
SOHO	Small Office Home Office, 小規模オフィス・ホームオフィス
オフィス共有IJP	商品カテゴリーの1つ。高プリントボリュームオフィス向けプリンター。I/Cモデル,RIPS,LIJを含む
商業・産業IJP完成品ビジネス	商業・産業用大判インクジェットプリンター本体・インク・サービスなどを含む
プリントヘッド外販ビジネス	プリントヘッド、インクなどを含む
Epson Connect	エプソンの商品・サービスを対象としたモバイル・クラウドサービス
Color Control Technology	商業・産業印刷における色再現性を高めるカラーマネジメント技術
分散印刷	同一内容の印刷データを複数のプリンターを用いて印刷する方法
SIDM	Serial Impact Dot Matrix Printer
3LCD	プロジェクター方式の1つ。液晶パネル3枚を使う方式
高光束プロジェクター	交換レンズ機能付き高輝度プロジェクター
FPD	Flat Panel Display, フラットパネルディスプレイ
OLED	Organic Light Emitting Diode(有機EL)
WP	ウェアラブル機器事業
MD他	マイクロデバイス他事業

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION